

表1

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立沼間小学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

○学校教育総合プランの項目

I 子どもたちの学力向上

1 個に応じた指導の充実

実施計画

①実施計画の重点等

- ・指導法の工夫改善による、基礎・基本の習得、思考力・判断力・表現力及び主体的に学ぶ態度の育成
- ・つきたい力を明確にした「わかる授業」、「学び合う授業」に向けた授業づくりの工夫改善
- ・学習評価の妥当性・信頼性を高める
- ・校内支援体制を活用した児童支援の充実

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- ・家庭との連携による基本的な生活習慣の定着
- ・基礎学力の定着に向けた家庭学習の習慣付け
- ・要支援児童の課題に応じた専門家や専門機関との連携・協働
- ・読書活動の日常化に向けて保護者による読み聞かせボランティアや図書館ボランティアの活用

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 「確かな学力」を育むための個に応じた指導の充実	①基礎・基本の定着に向けた「わかる授業」への工夫改善 ②発達段階に応じた学習の仕方の指導	①基礎・基本の定着に向けた「わかる授業」への、具体的な工夫改善 ②発達段階に応じた学習の仕方の指導、並びに家庭学習の充実 ③校内研究と連動した研修の実施と授業改善	①基礎基本の定着に向けた「わかる授業」への工夫改善 ②発達段階に応じた学習の仕方の指導
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した

表1

<p>成果と課題</p> <p>①校内研究や授業研究の実施に伴い、「わかる授業」への工夫改善は進んだが、今後も継続する必要がある。</p> <p>②発達段階に応じた学習の仕方についても学年で共通理解を図りながら、今後も継続していく。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①基礎・基本の定着のために、補習を含めたさまざまな手段を使って、子どもたちを導いてきている。「わかる授業」から「ともに学び合う」授業を次の課題にして取り組んでいる。</p> <p>②家庭学習の必要性については、学級及び学年通信、学校だよりを通じて保護者の協力を得ながら、定着した効果を上げている。</p> <p>③「ともに学ぶ授業」づくりを目指していることにより、教員は学び合うことで子どもたちが答えを創り出せる、授業展開及びそのための教材づくりを研究している。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①わかる授業ということについて、子どもたちはお互い仲間同士の学び合いの中でも築くことができるようになった。本校の授業の根幹を、構築することができた。(校内研究の取り組みについて、それが授業力の向上につながった)</p> <p>②取り出し指導をしたり個別教材を使ったりして、個に応じたきめ細やかな指導をすることができた。</p>
--	---	---

表1

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 「読解力」向上の取り組みの推進	①各教科での言語活動の充実 ②自分の考えを表現できる子の育成 ③「学び合い」を大切にしたい授業づくり	①各教科における、言語活動の充実を目指した年間指導計画及び授業づくり ②自分の考えを、自分の言葉にして表現しようとする子どもの育成 ③各教科並びに様々な教育活動を通じて、「学び合い」を大切にしたい授業づくり	①各教科での言語活動の充実 ②自分の考えを表現できる子の育成 ③「学び合い」を大切にしたい授業づくり
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 本校の校内研究のテーマに沿って全教員が取り組んだが、継続することで読解力のさらなる向上を図る。	成果と課題 ①言語活動の充実を図ることは、各教科並びに特別活動等において、実施されてきた。その中で扱われてきた題材を通じて、計画的な指導を行うことができた。 ②いわゆる自己表現活動、プレゼンテーション能力の育成だが、これは毎朝の会のスピーチや、各教科並びに総合学習等の発表において実践することができた。 ③「学びあい」は校内研究のテーマでもあるので、さまざまな教育活動においてアクセントをもたせた取り組みができています。	成果と課題 ①各教科並びに特別活動等において、クラス全体または複数による「話し合い」「学び合い」「気づき合い」を授業の柱にした学習活動を、計画的・継続的に行うことができた。 ②児童にとって、自分の言葉で意思伝達することが、様々な教育活動を通じて意識付けられている。 ③「学び合い」と「集団作り」を一体化した指導目標で、各教科並びに特別教科等を行うことが定着した。
行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 読書活動の推進	①読書活動の日常化 ②読書環境の充実 ③学習活動に読書活動を位置づける	①読書活動の日常化を果たすことにより、子どもたちの学校生活の基盤を養う ②子どもたちが、読書に親しみやすい環境を整備していく(学習情報センターとしての、図書館機能の充実) ③学習活動の中に、子どもの発達段階に応じた読書活動を位置づける	①読書活動の日常化 ②読書環境の充実 ③学習活動に読書活動を位置づける
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した

表1

④ 校内支援体制を活用した支援教育の推進	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
	成果と課題 本校の読書活動が全教職員の共通理解の下で進められていることや、児童による図書委員会の取組、学校支援地域本部事業での取組が定着していることが児童の読書環境の充実に役立っている。	成果と課題 ①読み聞かせボランティアが日替わりで、各クラスの朝の会において、読み聞かせを行うとともに、教室内に書物が整備されていて親しまれている。 ②図書室及び調べ教室共に、子どもたちが興味・関心を持ちやすく、また調べ学習をする上でニーズに合った条件整備が整えられている。 ③休み時間、学習時間等を通して、読みに親しむ習慣は、各学年及びクラスの中で定着している。	成果と課題 ①読み聞かせ指導及び各クラス内で朝の読書タイムを設けていて、読書の日常化が定着している。 ②図書室及び調べ学習室が、児童にとって親しみやすい環境として整備されている。教室内における学級文庫についても、児童の興味や関心をもちやすいものが用意されている。 ③わからないことや、より深く知りたいことに対して、各教科並びに特別活動等の中で積極的な読書活動が行われている。
①校内支援体制の構築 ②支援ニーズの把握と指導の充実 ③児童理解に基づいたきめ細かな支援と保護者との連携・協働の推進	①校内支援体制における円滑な組織運営 ②児童並びに保護者に対する支援ニーズの把握と指導の充実 ③児童理解に基づいたきめ細かな支援及び保護者・外部機関との連携・協働の推進	①校内支援体制の構築 ②支援ニーズの把握と指導の充実 ③児童理解に基づいたきめ細かな支援と保護者との連携・協働の推進	
(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	
成果と課題 ①校内支援体制づくりへの共通理解は進み、学年協働、学校内支援が進んでいる。 ②支援シートを記入する取組では保護者との連携が欠かせない。 ③保護者と信頼関係を結び、連携・協働をさらに推進していきたい。	成果と課題 ①教育相談コーディネーターを中心とした組織運営及び体制作りを、今年一年をかけて確立してきた。次年度は二人体制をとって、更なる実用化を図っていく。 ②③同じく教育相談コーディネーターが中心にはなるが、児童個々の学習障害や児童指導的な問題や行動に対するアセスメントは、学級並びに授業担当者が行う中で、児童または必要に応じて保護者への支援を外部機関とつなぎながら行っている。	成果と課題 ①教育相談CDの二人体制が、校内支援体制の中核となって機能した。二人目のCDの授業時数を、授業者全体でカバーしてきた。 ②児童一人ひとりのアセスメントを大切に、年間を通じて支援ニーズのある児童の指導を協力的に行った。 ③主に教育相談CDが中心になって個別指導を行ったり、保護者との教育相談を行ったりしてきたが、学級並びに授業担当者も協働して取り組んだ。	

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(返子市立沼間小学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

○学校教育総合プランの項目

I 子どもたちの学力向上

2 健やかな心と身体の育成

実施計画

①実施計画の重点等

- ・基本的な生活習慣の育成に向けて、発達段階に応じた指導を計画的に進める。
- ・豊かな心を育む道徳教育の要として道徳の時間を位置づけ、教育活動全体を通じて道徳性を養うように努める。
- ・豊かな体験活動、健康教育を推進させるために、積極的に情報を発信して家庭・地域との連携を促進する。

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- ・日常の生活習慣の育成が基本であることから、保護者と連携協力して子どもの育成を図る。
- ・豊かな心を育む教育に向けて、保護者・地域が一体となった挨拶運動等を推進する。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 基本的な生活習慣の育成	①学校でのきまりや暮らし方の指導を学校全体で計画的に進める ②学校だより・保健だより・給食だより等を発行して積極的に啓発活動を進める	①学校でのきまりや暮らし方の指導について、学校全体で計画的実践的に進める ②学校だより・学年及び学級だより・保健だより・給食だより等を発行して、保護者への啓発運動を推進する(保護者と連携した児童の生活習慣の確立)	①継続 ②毎朝の食事を摂ること(90%以上)家族の一員としての役割を果たす。
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した

<p>成果と課題 各グループの担当が適切な話題を取りあげて進めることができ、保護者への啓発活動も保護者に理解されている。</p>	<p>成果と課題 ①学年会→児童指導部において観察・話し合いを進めてきた結果を、職員会議の中で進めてきた。生活のきまりや基本的な生活習慣の確立を図ることをねらいとするために、「沼間小スタンダード」となるものを、次年度を通じて創っていく計画である。 ②各お便りが定期的に発行されていたことで、学校の情報や共通理解を依頼することについて、確かな発信を果たすことができた。</p>	<p>成果と課題 ①年間で三回、児童指導研究全体会においてアセスメントや指導結果を共有し、望ましい学校生活や学習規律について、話し合いを持つことができた。 ②児童を対象にした生活アンケートから、喫食率9割は超えていた。朝食の必要性や大切さにつき、各おたよりを通じて保護者に発信することができた。家族としての参画意識を持たせるために、お手伝いの大切さとそれを生活習慣化させていけるように発信することができた。</p>
--	---	---

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 豊かな心を育む 道徳教育の推進	①各教科、総合的な学習の時間、外国語活動と連携を図りながら、計画的に道徳教育を進める ②学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動を推進する ③学校内の縦割り活動を通して異年齢交流を進める	①各教科、総合的な学習、外国語活動等と連携を図りながら、計画的に道徳教育を推進する ②地域人材活用の授業実践(年間3回以上) ③学校内の縦割り活動を通して、異年齢交流を通じて思いやりの心を育む	①継続 ②地域人材活用の授業実践(年間5回以上) ③継続
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 ①道徳教育への関心も高いが、教職員全員が適切な指導を進めていくために研修等を進め、共通理解を促したい。 ②あいさつ運動は校内での指導が反映されているが、定着するまでには至っていない。継続指導が望まれる。	成果と課題 ①各教科並びに特別活動等との兼ね合いを考慮しながら、道徳教育を精力的に推進してきた。 ②4・5・6年生で、教科または生活指導の一環として取り扱うことができた。 ③特別活動を中心にして、その他多くの場面を通じて、縦割り活動の推進を果たすことができた。内容の更なる充実という意味では、再考の余地があることを共通認識している。	成果と課題 ①各教科並びに特別活動等を通じて、計画的な道徳教育の推進を果たせた。 ②4・5・6年生を中心に、各教科並びに特別活動等において、積極的に取り入れることができた。 ③特別活動を中心に縦割り活動が推進され、内容の改善及び充実が果たした。
行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 豊かな体験活動の 推進	①逗子の豊かな自然にふれ、自然の大切さを学ぶ自然体験学習を進める ②集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、思いやりや信頼感を高める機会とする ③校内において芸術鑑賞会を開催する	①集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、そして思いやりや信頼感を高める(自然体験活動、林間学校、修学旅行) ②校内において、芸術鑑賞会や福祉体験を開催し、体験型学習の推進を図る	①集団宿泊体験を通して、互いのつながりを自覚し、他者への関心や愛着、そして思いやりや信頼感を高める(自然体験活動、林間学校、修学旅行) ②校内において、芸術鑑賞会や福祉体験を開催し、体験型学習の推進を図る
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した

<p>成果と課題 各学年とも意図的な取り組みを進め、豊かな体験活動が展開されている。</p>	<p>成果と課題 ①意図的・計画的な取り組みの末に、各学年とも確かなねらいを果たすことができ、それを通常の学級運営に活かすことができた。 ②学年の発達段階に応じた芸術系並びに福祉系の団体を招聘し、実体験ができる企画・推進ができた。</p>	<p>成果と課題 ①様々な場面において、仲間づくりの大切さを意識させ、より良い集団作りに努めた。 特に高学年では林間学校や修学旅行を通して、仲間同士の深い絆ができた。 ②学年ごとに、芸術または福祉関係の観賞や学習会を設け、実体験をねらいにした計画を立て実行した。</p>
--	---	---

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
④ 食育の体系化と 体力づくり・健康教育 の推進	①健康教育を学校全体で推進する ②食の指導に関する年間指導計画に基づいて食育を実施する ③薬物乱用防止教育や安全教育を推進する	①健康教育を学校全体で、計画的・系統的に推進する ②食の指導に関する年間指導計画に基づいて、PTAと連携した食育指導の充実を実施する ③薬物乱用防止等の教育や、安全教育を推進する	①健康教育を学校全体で、計画的・系統的に推進する。 ②食の指導に関する年間指導計画に基づいて、PTAと連携した食育指導の充実を実施する。 ③薬物乱用防止等の教育や、安全教育を推進する。
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 各学年とも意図的な取り組みを進めていることから、成果が感じられる。	成果と課題 ①養護教諭からの「保健だより」を通じての発信、並びに保健委員会の活動を通じて、計画的な取り組みを果たすことができた。 ②栄養士並びに担当教諭が中心となり、生活の中における食の大切さについて、各学年に応じた教材や課題を提示して取り組むことができた。PTAとは給食の試食会で子どもたちの配膳の様子を参観し、学校給食への興味と理解を深めることができた。 ③薬物乱用については学年の発達段階に応じて、特別活動の中で取扱い、意識を高めることができた。安全教室は、インターネット、携帯電話、不審者対策というねらいで、それぞれ実施することができた。	成果と課題 ①「保健だより」「学校だより」「学年・学級だより」等を通じて、計画的に健康管理に関する呼びかけを、児童並びに保護者対して行った。 ②学校栄養技師並びに担当教諭が中心となり、夏季休業期間に課題提示(献立作りや調理する)して、食の大切さが生活に大きな影響をもたらしていることを学習した。 PTAとは給食試食会が恒例の企画として位置づいていて、学校給食への理解を深めることができています。 ③各学年の発達段階に応じて、幅広い意味で薬物乱用を防ぐための指導を、授業を通じて行うことができた。 安全教育については、適切なインターネットやスマートフォンの利用といったテーマで講師を招き、有意義な学習の場を設けることができた。 不審者対策は日ごろから注意喚起を呼びかけるとともに、校内に不審者の侵入したらという実体験をする訓練を実施し

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(逗子市立沼間小学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

○学校教育総合プランの項目

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

1 多様な教育的課題への対応

実施計画

①実施計画の重点等

- ・子どもの安全と安心の確保に向けて、地域との連携を深め、継続した交通指導やパトロールの実施を進める。
- ・いじめ・不登校等の問題行動への対応を進め、校内支援体制の充実や専門機関との連携を図り、未然防止、早期発見、早期対応、早期解決、そして根絶に努める。
- ・幼保と小学校、小学校と中学校との日常的な連携に努め、子ども理解に基づいた継続した指導の充実を図る。
- ・子どもの発達段階に応じて社会とのつながりを意識した教育や将来の生き方についての教育を推進する。

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- ・子どもの安全と安心の確保を図るため、学校と地域のボランティアや各関係機関との連携により、地域ぐるみで環境整備を進める。
- ・いじめ・不登校の対応は校内支援体制を生かして組織的に進めるとともに、専門家や専門機関との連携・協力を図る。
- ・子どもたちが自分の将来に夢と希望を抱くことができるように、多様な価値観を受け入れる素地を保護者と連携して進める。
- ・地域の特性を生かして、連携・協力し、子どもや保護者が安心できる幼児期から小・中学校につながる教育環境づくりに努める。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 学校安全の推進	①学校防災計画に基づいた安全体制の整備 ②教職員、保護者による通学路の点検 ③自分の命は自分で守ることができるように安全への啓発活動を実施	①沼間小学校防災計画に基づいた、安全体制確立のために、地域と連携した組織運営の整備を図る ②不審者対策、安全教育の実施、災害用伝言ダイヤル171の訓練等の充実 ③自分の命は自分で守ることができるように、各学年の発達段階に応じた安全への啓発を高めていくようにする	①継続 ②災害用伝言ダイヤル171年間三回実施 ③継続
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した

<p>成果と課題 防災アドバイザーを活用して安全教育の評価を進め、より良い計画案ができています。</p>	<p>成果と課題 ①小学校区における避難所運営会議並びに年に一回の訓練について、地域と連携した取り組みを推進することができた。 ②不審者安全対策については、校内における実地訓練並びに実体験型の安全教室(2・3年生を対象とした「スキップ」)を行った。防災ツールを増やすために、「災害用伝言ダイヤル171」に取り組んだ。次年度は3回の実施を計画している。 ③道徳・学級指導・特別活動等を通じ、命の大切さをもとにした自己防衛について意識を高めさせることができた。</p>	<p>成果と課題 ①過年度までにおける地域との取り組みに加え、本校の避難訓練に対して「合同・協働」という呼びかけを、学校だより等を通じて行った。 ②災害があったときに、一つでも多くの連絡ツールを備えるために、今年度は2回実施ではあったが、内容の充実を果たすことができた。保護者が操作に慣れるというねらいから考えると、次年度は3回の実施できるようにしていく。 ③様々な教育活動を通じて、児童一人ひとりが自己の心身を守るために、命の尊さについて適宜指導してきた。</p>
--	--	---

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 問題行動等への対応の推進	①問題行動への組織的対応を図る ②定期的な実態把握に努めるとともに、早期発見・早期対応を進める ③教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を図る	①問題行動への組織的対応を図る(教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、心の教室相談員の効果的活用及び校内の教育相談体制の再検討) ②定期的な実態把握に努め、未然防止・早期発見・早期対応・早期解決、そして根絶を進める(生活アンケートの工夫と充実した活用) ③教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を組織的に図る(他機関との連携の充実)	①問題行動への組織的対応を図る(教育相談CD、スクールカウンセラー、心の教室相談員の効果的活用及び校内の教育相談の再検討) ②定期的な実態把握に努め、未然防止・早期発見・早期対応・早期解決、そして根絶を進める(生活アンケートの工夫と充実した活用) ③教育ニーズの把握に努め、総合的な支援体制の確立を組織的に図る(他機関との連携の充実)
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	成果と課題 児童指導に関わる一次支援として、各学級とも学級を開き、スクールカウンセラーや、巡回指導員を積極的に受け入れて問題行動への対応を進めていることから、未然防止・早期対応が進められている。	成果と課題 ①校内における教育相談に関することとして、教育相談コーディネーターの位置づけと立ち回り、具体的な役割について、一年間を通して確立を図ることができた。次年度は二人体制を作ることにより、更なる効率と実績を高めていくようにする。 ②児童指導部の中で生活アンケートの内容見直しは勿論のこと、記名方式を試みて実態把握の充実に努めた。 ③支援体制の確立は、校内外を含めた連携を積極的に執り行うことで、個に応じて総合的な見地に立った支援体制をとることができた。	成果と課題 ①問題行動を起こさない、起きたときの組織編制及び運営について、各担当者と密接で迅速な連携が図れるようになった。 教育相談CDの二人体制が、様々な教育活動の中で活かすことができた。 ②児童に対する日々の観察を大切にすることはもとより、児童指導部による「生活アンケート」の内容の見直し及び事後指導の活用について、工夫改善をすることができた。 ③児童の個に応じた学習及び生活ニーズについて、支援教育関係担当者が中心となった組織運営を推進した。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携の推進	①担当者が年間計画を立てて進める ②小中9年間の学びの連続性に向けて情報交流を進める ③幼・保との連携では授業交流や行事での子ども同士の交流を推進する	①幼・小・中学校間で、教員の授業交流の実施 ②小・中9年間の学びの連続性に向けて、情報交流を進める ③幼・保との連携では、授業交流や行事における子ども同士の交流を推進することで、一連の流れのあるつながりを推進する	①継続 ②小中9年間の学びの連続性に向けて情報交流の末にカリキュラムづくりを進める ③継続
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成できなかった ③達成した

<p>成果と課題 幼・保・小・中連携の意義は浸透し、継続し取り組みとなっている。今後は組織的な分掌として統合整理する方向で進めている。</p>	<p>成果と課題 ①各機関との連携は、行事の参観及び追跡調査といった形で取り組んできた。 ②沼間中との連携で、義務教育「9か年の学び方作り」という点で、一小＝一中を利点とする連続性のある学び方について、その取り組みが夏季合同研修会において始まったところである。 ③ 毎年、本校に入学予定の大所である幼稚園・保育園児を招き、1年生がゲームや合唱等を行い、歓迎の意を表わす会を催している。本校からは、該当の保育園・幼稚園を訪れ、保育参観や情報交換を行っている。</p>	<p>成果と課題 ①授業並びに行事の参観を主に、積極的な交流を行った。 ②授業参観及び合同研修会(授業研究)を開き交流が盛んになったが、カリキュラム作りにまでは至らなかった。 ③「ようこそ集会」という行事に、本校入学予定の園児を招くことが恒例となり、その一方で幼・保育園への参観に行き、新入生としての受け入れ態勢のために、入念な情報交換を行った。</p>
--	---	--

行動プラン

④ 国際教育の推進

H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
<p>①外国語活動を生かしコミュニケーション能力の育成を図る ②外国語活動ガイドラインに沿った授業の充実を図る ③IEA(国際教育指導助手)と協力して日常的な交流や教材開発を進める</p>	<p>①外国語活動の中で異文化を理解しながら、他文化との共存を図るコミュニケーション能力の育成を図る ②IEA(国際教育指導助手)の有効活用のもとで、授業実践の充実を図る ③IEA(国際教育指導助手)と協力して、日常的な交流や新たな教材や題材の開発を進める</p>	<p>①外国語活動の中で異文化を理解しながら、他文化との共存を図るコミュニケーション能力の育成を図る ②国際理解教育指導助手の有効活用のもとで、授業実践の充実を図る ③国際教育指導助手と協力して、日常的な交流や新たな教材や題材の開発を進める</p>
<p>(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した</p>	<p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p>	<p>(評価) ①達成した ②達成した ③達成した</p>
<p>成果と課題 外国語活動の趣旨を理解した授業づくりが進んでいて、IEA(国際教育指導助手)と担任が連携・協力して児童の学ぶ意欲が向上してきている。</p>	<p>成果と課題 ①外国語活動の時間を通じ、毎時間において異文化理解を深める題材を扱い、コミュニケーション能力の必要性を大切にしたい取り組みを進めてきた。 ②③外国語活動の授業以外にも、全学年を通じて、IEA(国際教育指導助手)が授業並びに特別活動の時間に参画し、授業実践を進めることができた。 題材の共有化については、そのための手段・方法を考えていくことを課題として考えている。</p>	<p>成果と課題 ①外国語活動の主旨を大切に授業づくりを大切に、国際理解教育指導助手と連携したコミュニケーション能力の育成を推進した ②③外国語活動以外の教科並びに特別活動等においても、国際理解教育指導助手と有効な教材や題材を作り、コミュニケーション活動中心の授業を推進した。</p>

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑤ キャリア教育の推進	<p>①発達段階に応じたキャリア教育を実践する</p> <p>②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために各教科や体験学習等を有効に活用する</p> <p>③キャリア教育への保護者の理解を促す</p>	<p>①発達段階に応じたキャリア教育を、計画的・系統的に計画し実践する</p> <p>②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために、各教科や体験学習等を有効に活用する</p> <p>③学校行事並びに児童会活動の充実を図る</p>	<p>①発達段階に応じたキャリア教育を、計画的・系統的に計画し実践する</p> <p>②子どもたちに望ましい職業観、勤労観を育むために、各教科や体験学習等を有効に活用する</p> <p>③学校行事並びに児童会活動の充実を図る</p>
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	<p>成果と課題</p> <p>いろいろな教育活動場面を活用してキャリア教育が進められている。特にゲストティーチャーを招いた授業ではキャリア教育の幅が広がっている。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①各教科、特別活動並びに総合的な学習の中で、自己の将来について見つめ直したり、課題解決を目的とした取り組みをしたりすることができた。更なる具体的なキャリア教育として位置づけられるものを、模索しているところである。</p> <p>②各教科において、将来における職業観について見つめさせ、勤労観の大切さを学ばせてきた。体験学習については、一部の学年で実施することができた。</p> <p>③様々な学校行事を通じて、児童会組織を中心とした活動の推進を果たすことができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①②各教科、特別活動、総合的な学習等を通じて、児童が自分の将来について見つめ課題解決を図ってきた。特に、ゲストティーチャーを招いた授業では、生きる力を育むための共通題材として実施することができた。</p> <p>③各学校行事において、児童会の組織運営を中心とした活動を行った。上級生が下級生をリードしていくことを基本に、各活動場면을指導してきた。</p>

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑥ 福祉教育の推進	<p>①日常的に人を思いやる教育から始める</p> <p>②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善を図る</p> <p>③社会福祉協議会と連携し、体験的な学習活動を推進する</p>	<p>①外部人材を活用して、各学年における年間計画の作成のもとで、指導方法の工夫改善を図る</p> <p>②社会福祉協議会と連携し、地域と協働した児童の体験的な学習活動を推進する</p>	<p>①継続</p> <p>②外部人材を活用したりして、指導方法の工夫改善及び充実を図る。</p> <p>③継続</p>
	(評価) ①達成した ②達成した ③達成できなかった	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した
	<p>成果と課題</p> <p>信頼に基づく指導を大切に取り組んでいることから、学級運営では人を思いやる教育が基本となっている。福祉学習における体験的な学習についても工夫して取り組んでいるが、学年によって今年度は、社会福祉協議会との連携事業を見送った学年もある。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①教科並びに特別活動を通じて、福祉に対する理解及び必要性について扱ってきた。指導方法の工夫・改善については、今後の課題としている。</p> <p>②社会福祉協議会との連携事業は、4・5・6年生で行うことができた。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①②各教科、特別活動等を通じ、福祉教育について、理解・認識する必要性について扱った。学年の発達段階に応じた題材という点では、引き続き検討事項としていく。</p> <p>③社会福祉協議会との連携事業は、4・5・6年生を対象に実施した。</p>

行動プラン H19(2007)年度実施内容 H26(2014)年度予定内容 H27(2015)年度予定内容

⑦ 環境教育の推進	①環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を進める ②子どもたちの実践活動を通して、家庭や地域での環境に関わる理解を深める	①環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を計画的に推進する ②子どもたちの実践活動を通して、地域と協働した環境学習を推進する	①環境教育の推進に向けて、学年に応じた体験活動を計画的に推進する ②子どもたちの実践活動を通して、地域と協働した環境学習の推進する
	(評価) ① 達成した ② 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ①家庭科や理科、総合的な学習で環境教育に取り組み、児童の意識改革が進んだ。 ②夏休みの課題として取りあげ、実践的な取組を進める等主体性も見られる。	成果と課題 ①特に、生活科、家庭科、理科、総合的な学習の時間等において、環境問題に対する興味・関心が高まった。 ②夏季休業期間中の課題として、各学年の発達段階に応じて、環境問題について考えさせ、自己の考えを持つように促した。地域との具体的な協働については、今後の課題として考えていく。	成果と課題 ①②ボランティアやゲストティーチャーによる体験型実践活動が、各教科並びに総合的な学習等において実施した。夏季休業期間中における環境問題に関する課題は、学年の発達段階に応じて行うことが定着した。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
⑧ 情報教育の推進	①情報機器活用能力の育成に努める ②情報リテラシーの育成や情報モラル教育に努める ③情報機器を有効に活用し、授業効果を高める	①ICT(情報通信技術)機器を有効に活用し、教科指導及び様々な教育活動においてプレゼン能力を中心とした効果が果たせるよう努める ②情報リテラシーの育成や、情報モラル教育に保護者を交えた理解の促進に努める	①ICT機器を有効に活用し、教科指導及び様々な教育活動においてプレゼン能力を中心とした効果が果たせるよう努める ②情報リテラシーの育成や、情報モラル教育に保護者を交えた理解の促進に努める
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 ・積極的に情報機器の活用は進められていることから、授業効果を高めることができている。 ・情報リテラシーや情報モラルについては基本的な指導は学校で行うが、家庭との連携を積極的に進めていきたい。	成果と課題 ①様々な授業において、ICT(情報通信技術)機器を活用した学習形態並びに児童の学習経過や結果を発表する場面として、機器の存在価値を果たす取り組みがなされていた。 ②特に情報モラルについては、各学年の中で適宜学習が進められている。外部講師を招いての情報教育は、今後は下の学年までを考えた計画が必要だと感じて	成果と課題 ①各授業及び行事等において、ICT(情報通信技術)機器を活用した学習場面を増やし、児童が学習経過や結果について、発表する場面を大切にする取り組みをした。 ②情報モラルについて、これまで以上に重要視した指導を外部講師を招いた授業をし、学年並びに学校だより等を通じて、保護者への理解と協力を求めた。

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(返子市立沼間小学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

○学校教育総合プランの項目

Ⅱ 課題に迅速に対応する学校づくり

2 地域に開かれた学校づくり

実施計画

①実施計画の重点等

- ・地域への情報発信に努めるとともに学校説明会や授業公開日等を活用して開かれた学校づくりに努める。
- ・学校支援地域本部事業の推進に努め、地域教育力の積極的な活用を図る。
- ・学校評価を生かし、自己評価及び学校関係者評価の公開を行い、学校の改善を進める。

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- ・学校だよりを活用して学校の様子等を発信していくため、ホームページ更新等を定期的に進める。
- ・PTA事業と学校支援地域本部事業の協働を促し、より柔軟な取り組みを進めていく。
- ・学校評価の重点化をさらに進め、実効性のあるものにする。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 地域への情報発信と 学校公開の工夫	①年間通した学校状況の適切な公開を進める ②ホームページの更新を月1回程度とする ③地域と学校の相互理解が進むよう、コミュニケーションの場を大切にする (評価) ① 達成した ② 達成できなかった ③ 達成した	①学校だより、ホームページ等により、学校の情報を積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進 ②学校公開日を設定する中で、保護者及び地域との信頼関係を構築(5回以上設定) (評価) ①達成した ②達成した	①学校だより、ホームページ等により、学校の情報を積極的に発信し、「信頼される学校づくり」の推進 ②学校公開日を設定する中で、保護者及び地域との信頼関係を構築(5回以上設定) (評価) ①達成した ②達成した

<p>成果と課題</p> <p>学校だよりや学年だより等ではきめ細かな学校からの発信が進められたが、担当者が変わり月1回程度のホームページの更新は難しかった。今後は役割分担の引き継ぎを確認し、組織的な対応の継続を図る。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①顔の見える、間口を開いた学校をモットーにしていることから、本校における教育活動については諸機関を通じて、こまめに発信することができた。</p> <p>②今年度からの重点の一つとして取り組んできたが、少しずつ成果を上げることができている。保護者との人間関係の構築が、安定した学年・学級運営を推進していくこと並びに信頼関係の構築につながる根源であることを、共通認識することができた年であった。</p>	<p>成果と課題</p> <p>①学校だより、保健だより、給食だより、学年だより等を通じて、学校の情報をタイムリーに発信し、信頼される学校づくりに努めた。今年度から隔週で、校長だよりを発行した。ホームページの更新については、校務支援システムの導入にともなう準備期間として、次年度から多数が携われるように分掌において研修を重ねてきた。</p> <p>②保護者並びに地域との信頼関係を深めていくために、常時、授業公開ができるようにした。</p>
---	---	--

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
② 地域教育力の活用	①地域コーディネーターを活用して、開かれた学校支援地域本部事業を展開する ②学校支援ボランティアとの円滑なコミュニケーションに努める ③学校と地域との連携・協力関係のパイプを強くする	①学校関係者評価委員・学校評議員・地域教育協議会・PTAとの連携の強化 ②地域コーディネーターを活用した新たな人材発掘を進め、開かれた学校支援地域本部事業を展開する	①継続 ②地域コーディネーターを活用した新たな人材発掘を進め、分野別に役割分担を果たしていく
	(評価) ①:達成した ②:達成した ③:達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した
	成果と課題 学校支援ボランティアと適切なコミュニケーションができ、円滑な運用が進められている。	成果と課題 ①多くの見守りの手を感じる、本校の学校運営状況であり、諸機関の連携は密接に機能していた。 ②新たな人材発掘については、人員の増員ということで各機関の強化を果たすことができた。学校支援地域本部の取り組みについては、子どもたちの生活環境整備並びに学習効果の効率を上げるために、広範囲における活動の足跡を残すことができた。	成果と課題 ①諸機関の協力と連携を、密に機能させることができた。特にPTAとの連携は、保護者からの情報収集手段として活かされた。 ②学校のニーズに対し、地域コーディネーターが人材発掘及び活用を円滑に進めてきて、学校との連携事業が行われている。
行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
③ 学校評価を生かした学校の改善	①重点を絞った目標設定をして取り組む ②子どもたちの姿を通して学校改革・改善を進める ③学校評議員、学校関係者評価委員の学校理解を進め、積極的な支援を活用して学校改善を図る	①重点を絞った目標設定に対して具体的な取り組みを進める ②学校評議員、学校関係者評価委員による学校理解を進めることによって、学校改善に対して積極的なアクションを起こしていく	①重点を絞った目標設定に対して具体的な取り組みを進める ②学校評議員、学校関係者評価委員による学校理解を進めることによって、学校改善に対して積極的なアクションを起こしていく
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した	(評価) ①達成した ②達成した

<p>成果と課題</p> <p>① 学校評価について職員の理解が進みつつあり、保護者や児童アンケートの結果を分析的に見て活用しようとしてきた。</p> <p>② 学校評議員や学校関係者評価委員の学校理解が進み、現状把握と学校改善への提言が活用されるものとなってきている。</p>	<p>成果と課題</p> <p>① 保護者との人間関係の構築のために、懇談機会を増やすことをはじめとして、年度当初に重点行動目標としたことについて、意識的に結果を残せるよう取り組めた。</p> <p>② 学識経験者からは授業アドバイス、学校評議員及び地域教育協議会員の方からは、読み聞かせをはじめとする様々なボランティアという形で、学校運営の改善に対して積極的な参加を果たしてもらった。</p>	<p>成果と課題</p> <p>① 本校における教育活動の中で重点とする項目について、主に前・後期の二回、自己評価シートを作成・活用し、教職員全体で振り返りをしてきた。</p> <p>② 第三者評価を大切に、学校運営に反映させてきた。特に学識経験者からは、学校運営に係る様々な具体的なアドバイスを受けて、それについてアクションを起こしてきた。</p>
---	---	---

学校教育総合プラン(第Ⅲ期)実施計画 平成27年度報告(返子市立沼間小学校) 2016.3.

○学校教育総合プランの3つの柱

○学校教育総合プランの項目

Ⅲ 教員の指導力向上

1 教員研修・研究の充実

実施計画

①実施計画の重点等

- ・外部講師の招聘を積極的に進め、授業研究の活性化と充実を図る。
- ・授業づくりや授業評価の視点を明確にして、研究授業等に取り組む。
- ・学び合い、深め合う授業や学習意欲の向上に向けた授業の工夫・改善を図り、確かな学力の育成を推進する。

②実施にあたっての留意事項、地域や保護者の協力など

- ・授業評価については、研究授業時を活用して教員同士が進め、子どもの姿を通して授業評価を進める。
- ・学年教員で日常的に授業づくりの充実に努める。

行動プラン	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
① 授業研究の充実	①授業研究の日常化をめざす ②外部講師を招聘し、授業研究を開いた形で進める ③授業研究を公開し、学校間の実践交流を進める	①授業研究の日常化(毎日が参観日)を目指す ②外部講師を招聘し活用した、授業研究の実践を進める ③授業研究を公開(年間二回以上)し、学校内におけるの実践交流を進める ④学年ブロックを中心とした、授業研究の推進	①授業研究の日常化(毎日が参観日)を目指す。 ②外部講師を招聘し活用した、授業研究の実践を進める。 ③授業研究を公開(年間二回以上)し、学校内におけるの実践交流を進める。 ④学年ブロックを中心とした、授業研究の推進
	(評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した	(評価) ①達成した ②達成した ③達成した ④達成した

<p>成果と課題 本校の学校文化として授業づくりは定着している。今年度も積極的に専門的な講師を招聘し進めていて、参加職員の満足度も高い。</p>	<p>成果と課題 ①校長及び教頭はもちろんのこと、教育相談コーディネーター、うるおいフレンド、そして授業準備時間等を利用して、お互いの授業公開に努めていた。保護者に対しては、必要に応じて積極的な公開を行っていたが、どの学年でいつでもという体制を作るには、様々な条件整備が必要である。 ②逗子市委託研究Ⅰに取り組むことで、スーパーバイザーを指導・助言の柱にして、充実した授業実践を果たすことができた。 ③指導案を添えて前後期を通じて一回ずつ以上、全体に呼びかけた授業公開を行うことができた。 ④校内研究を推進していくための基盤と</p>	<p>成果と課題 ①④お互いに授業を見合うことを大切に、授業準備時間等を利用して参観することが日常化している。授業づくりという点では、本校の伝統的な文化が定着している。 授業づくりを四ブロック編成で行い、研究体制の基盤を作った。 ②逗子市教委委託研究1の総括の年であったこともあり、スーパーバイザーを有効活用し、大きな実績を上げることができた。 ③指導案を添えた公開授業を、各自が年間で2回以上行った。校長、教頭、教育指導教員が、それぞれの指導・助言にあたることが定着した。</p>
--	---	---

	H25(2013)年度予定取り組み内容	H26(2014)年度予定取り組み内容	H27(2015)年度予定取り組み内容
行動プラン ② 授業評価の活用	①学習状況調査の分析を活用する ②研究授業では授業評価も含めた観点から外部講師による指導助言を図る ③子どもの授業後の振り返りを活用した授業評価を進める (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した 成果と課題 授業評価の活用については児童の特性を生かし、視点を与えた感想記入等でも授業評価として活用している。	①学習状況調査の分析を活用する ②保護者及び関係諸氏の評価を受けることで、授業実践の見直しを図る ③子どもの授業評価と教員相互による授業評価の実施と、それにとりまう授業改善 (評価) ①達成した ②達成した ③達成した 成果と課題 ①学状の結果が出た後に、早い段階で全体及び児童個々についての分析を済ませて、事後の指導に活かすことができた。 ②スーパーバイザーからの指導・助言を得て、その結果を授業改善に活かすことができた。保護者からの意見や感想を拾い上げるために、感想用紙を用意して記入を求めて振り返りをすることができた。 ③校内研究及び児童からは視点を絞った質問項目に対して記入方式で授業評価を得て、授業改善へとつなげていくことができた。	①学習状況調査の分析を活用する ②保護者及び関係者による評価による、授業実践の見直しを図る ③子どもの授業評価と教員相互による授業評価の実施と、それにとりまう授業改善 (評価) ①達成した ②達成した ③達成した 成果と課題 ①調査結果を速やかに分析し、本校の児童の学習実態などを検証し、児童及び保護者に対して事後に活かしていった。 ②行内研究のスーパーバイザーを中心として、学校関係者評価委員、学校評議員等からの指導・助言・感想を、授業改善に活かした。 保護者からのアンケート結果を受けて振り返りをしつつ、本校の児童に対する学力向上につながる授業づくりや指導法について研究を進めてきている。 ③仲間づくり、集団づくりを基盤にして、子どもたち同士で学び合う授業づくりを目指した。授業者のねらいと子どもたちの授業評価を、その後の授業改善に活かした。本校の児童の実態に相応しい授業づくりを、今後も模索していく。
行動プラン ③ 研修事業の充実	①校内研修体制を構築し、積極的に研修を進める ②児童理解、授業づくり等では学年会を日常的な研修の場としていく ③公開授業研究会等の研修の機会を生かし、期を逃さずに積極的な取り組みを促す (評価) ① 達成した ② 達成した ③ 達成した	①校内研修体制を構築し、積極的に研修を進めることによる人財育成 ②児童理解、授業づくり等では、学年会を日常的な研修の場としていく ③校内人財育成の強化(メンター・メンティー、B・Sの関係を位置づける) (評価) ①達成した ②達成した ③達成した	①校内研修体制を構築し、積極的に研修を進めることによる人財育成 ②児童理解、授業づくり等では、学年会を日常的な研修の場としていく ③校内人財育成の強化(メンター・メンティー、BSの関係を位置づける) (評価) ①達成した ②達成した ③達成した

<p>成果と課題 本校の学校文化として授業づくりは定着している。今年度も積極的に専門的な講師を招聘して進めている。</p>	<p>成果と課題 ①学習研究部、低・中・高学年ブロックを中心として、スーパーバイザーを交えた校内研究会を通じた組織運営の基盤を確立することができた。研究授業者は勿論だが、研究会の司会や発表を通じて、幅広い年齢層に渡って組織内で人材育成を果たすことができた。 ②本校における仕事の基本スタイル及び日々のライフワークとして定着している。 ③自己観察書の面接の折に、キャリアプランを含めてメンタリングやB・S(ブラザー&シスター)関係のことを話題提示し、人材育成の効率化を図ることができた。</p>	<p>成果と課題 ①委託研究Ⅰの二年目ということもあり、昨年度から編成した四ブロック体制を基盤にして、学習研究部が全体を統括している。授業力向上に向けた研修体制が、人材育成に大きく機能している。 ②学年会並びにブロック会で、授業づくりや児童理解、学年・学級運営について研修していくことは、日常的なこととなっている。 ③自己観察書の面接時を中心に、BS制やメンタリングのことについてはキャリアプランを交えて話題提示して、人材育成の効率を高めた。</p>
---	--	---